

平成22年度全国学力・学習状況調査（抽出校調査） 富良野市における調査結果の概要

平成22年9月 富良野市教育委員会

《全国学力・学習状況調査に関わる市教委の視点と取組分析について》

本調査は、各学校のランク付けや児童生徒一人ひとりの順位を競うことが本来の目的ではなく、教育施策の成果と課題を把握し、教育指導や学習活動等の改善を図ることが重要であると考えております。

そのため、教育委員会として、より一層の基礎・基本の定着と習得した知識・技能を活用する力の向上を図ることや学び意欲を高める授業の工夫改善について、各学校と共に取り組んできました。

このことを受けて、各学校では単に調査対象学年の担任だけではなく、全教職員が学習課題の情報を共有しながら、現状把握し、分析、検証、評価して学習改善に向けて取り組んできました。

教職員にあっては、自己研修や校内研修は勿論のこと、公開授業も自ら進んで行いながら、併せて、研究授業を積み重ねることで、児童生徒が自ら発表できる場面づくり（思考力、判断力、応用力等を高める）を積極的に行い、また、朝読書、朝学習の推進や宿題の出し方の工夫等をし、スキルアップに努めてきました。

更に、家庭において学習の習慣化が図られたことや生活習慣である「早寝、早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん」運動が徐々に定着し、それぞれが役割を持って全力で取り組んできたことが、今回の調査結果における2教科（4項目）の平均値の合計が北海道平均を上回り、また、応用力を活用した問題についても全国平均正答率を上回ったところであります。

《今後の学力向上に向けた取組みについて》

未来を担う児童生徒にとって、自ら学び自ら考える力を育てる。そして、学力の確実な定着を図り「生きる力」を育成することが大切であり、学校と家庭との連携強化が重要であります。

そのために、新学習指導要領の全面实施により、小中学校とも授業時数が増加するため、学校において児童生徒一人ひとりの学習意欲を高める「分かる、楽しい学習づくり」を継続し、構築していきます。

小中学校においては、

- ①定期的に授業を公開し、成果や課題について、常に検証に努める教育活動（実践検証的な研修教育）を推進します。
- ②児童生徒が発表する場面を積極的に取り入れ、自ら学ぶ意欲を育てます。
- ③児童生徒にとって学習活動だけではなく、これまでと同様に、様々な体験学習やスポーツ等を通じて社会性を身に付けた人格の形成を目指します。
- ④家庭学習の定着化に向け、宿題の出し方の工夫等を図ります。

更に、家庭においては、

- ①「早寝、早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん」運動の習慣化を図ります。
- ②読書に親しむ環境づくりのため「NOテレビ、NOゲーム、NOインターネット」の徹底を図ります。
- ③毎日、計画的に家庭学習（予習・復習）に取り組めます。
- ④「ほめて、伸ばす」家庭教育の推進を図ります。

学力調査結果の概要

各学校においては、これまでも各教科の教育内容の充実に努め、基礎・基本を確実に身に付けるための教育活動の創意工夫や弾力的な時間割の編成等の工夫改善に取り組みました。

今回の抽出校調査では、小学6年生、中学3年生の学力は2教科（4項目）の合計で北海道の平均値を上回り、教科によっては全国の平均正答率を上回る状況となっております。

特に、小学校の国語Bの活用に関する調査、中学校の数学Aの知識に関する調査、数学Bの活用に関する調査は、全国の平均正答率を大きく上回っており、各学校における指導方法の工夫改善プランが、計画的に実践された成果が表れております。

このことから学校と家庭との連携による家庭学習の習慣化が定着してきていることが伺えます。

生活習慣や学習環境調査結果の概要

○児童・生徒の状況

国語では、小学校、中学校ともに「国語の勉強が大切である」と考える児童生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、特に「読書が好きである」と考える生徒の割合は高い傾向にあります。また、小学校中学校ともに「国語の勉強は社会に出たときに役に立つ」と考える児童の割合も高い傾向にあります。

算数、数学では、小学校では「算数の勉強が好きである」と考える児童の割合は低いものの、中学校では高い傾向にあり、数学に対する学習意欲も高い傾向にあります。

また、中学校において「人の役に立ちたい」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦する」「物事を最後までやりとげてうれしかった」「いじめはいけないことだと思っている」等は、全国よりも高い傾向にあります。

○学校の取り組み

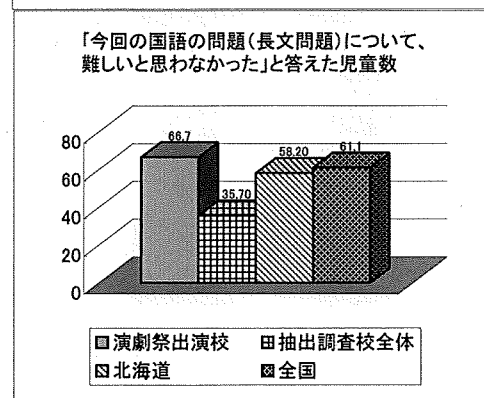
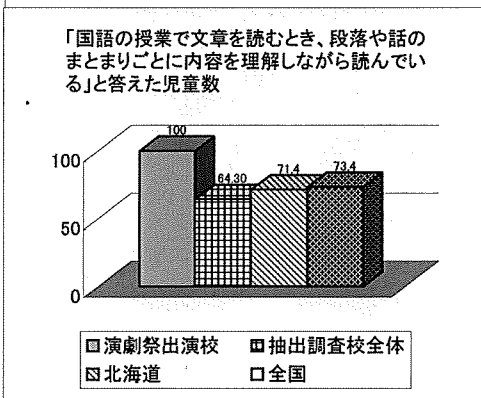
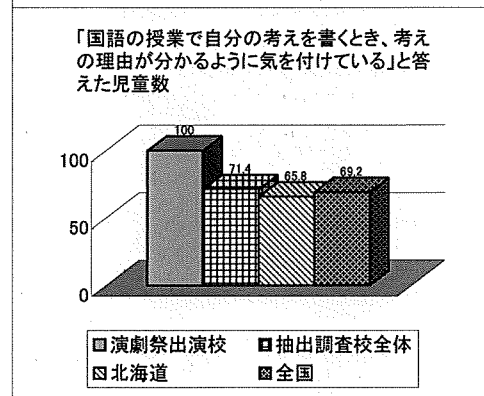
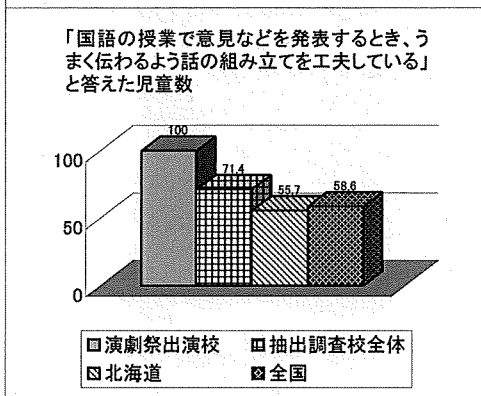
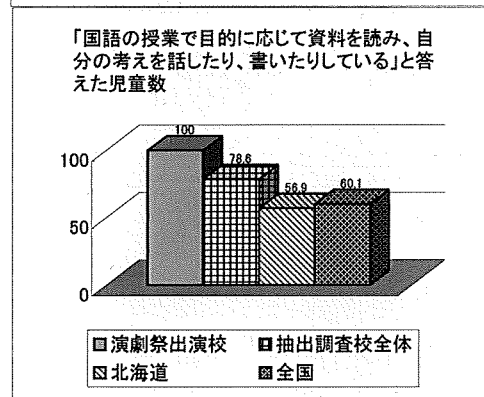
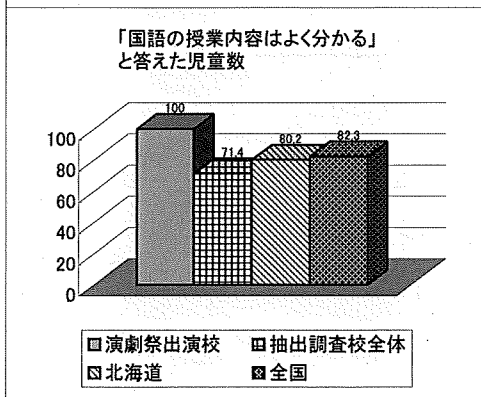
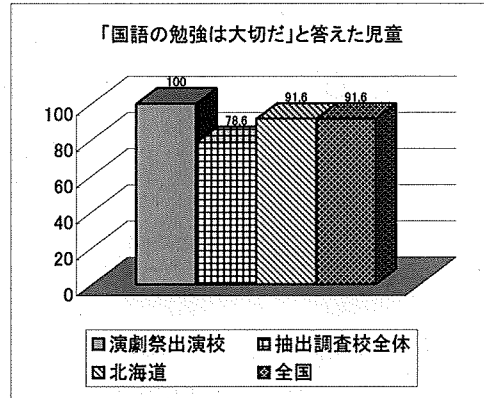
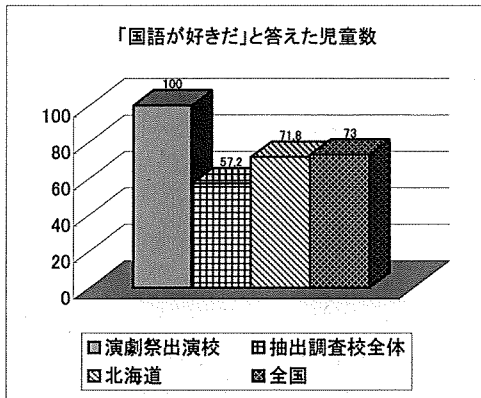
全ての学校が調査結果を分析し、教育指導の改善に努めております。

例えば、学校の指導計画や取り組みを検討するにあたり、調査結果や報告書の内容を参考にすることや自校の調査結果を対象学年の教科だけではなく、学校全体で活用したり、調査問題を他の学年の授業の中で活用する等の取組をしております。

また、調査を活用した学校改善推進実践研究校等では「学校改善プラン」を作成した上での取り組みや、指導方法工夫改善加配による教員の配置や特別支援教育支援員の配置、退職教員等の外部人材を活用した指導方法の工夫改善に努めております。

次頁以降に、抽出校調査結果の特徴的な項目をグラフ化しております。
また、1つの考察要素として「演劇活動」を観点にした分析を加えております。
なお、本調査結果の概要を報告するにあたり、抽出校の公表はいたしません。

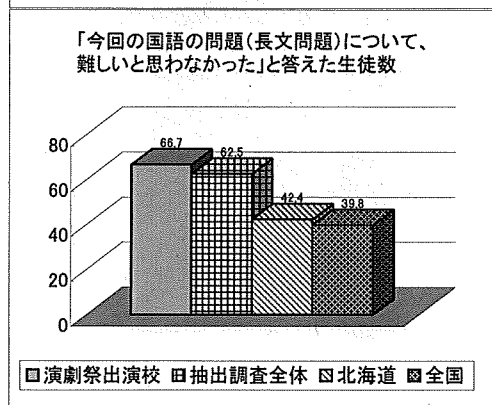
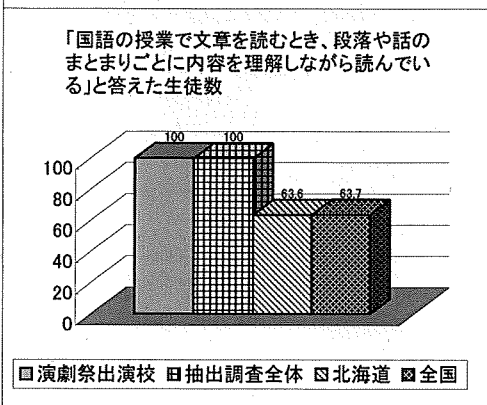
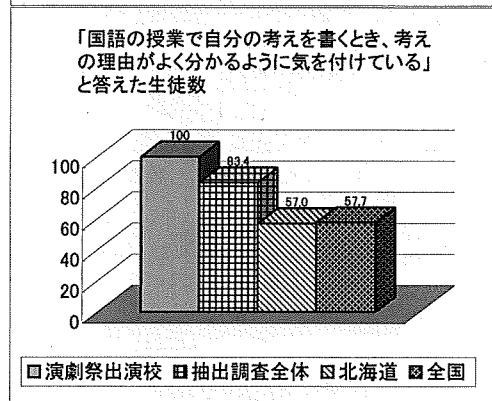
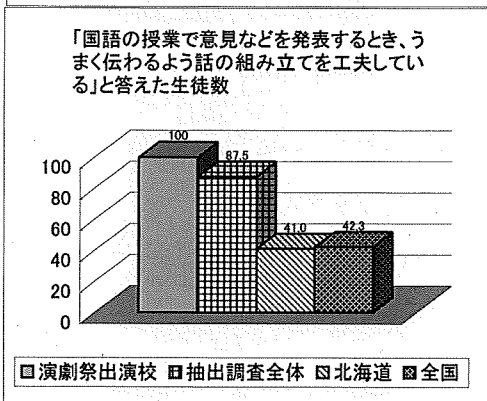
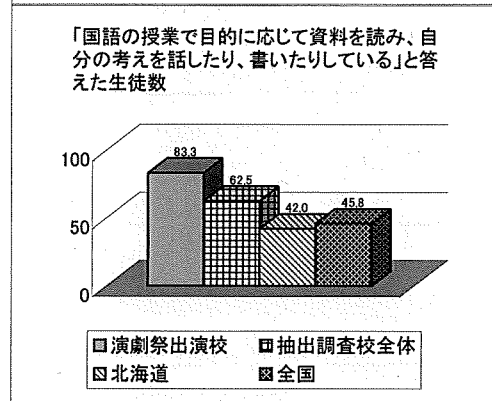
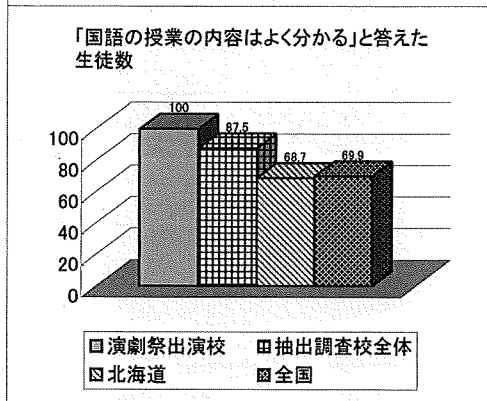
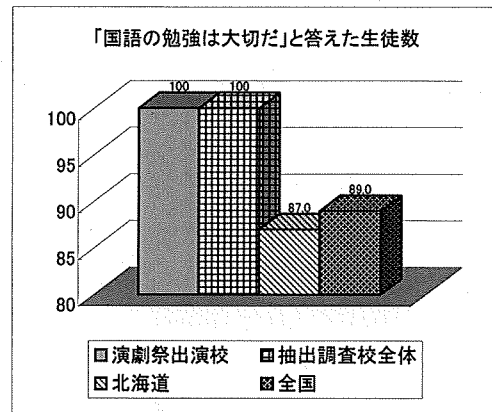
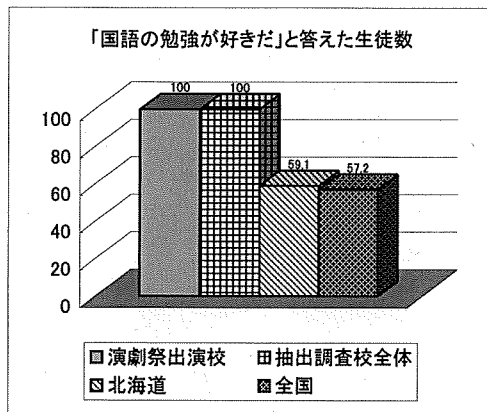
○生活習慣や学習環境調査（児童質問紙調査）の結果（公立：小学校6年生）



総合的な学習の時間等を活用し、校内の子どもたちが演劇に取り組み、演劇祭に出演している学校において、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた児童数が全国平均60.1%に対して抽出調査校全体では78.6%、演劇祭出演校では100%となっている。

また「国語の授業で意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」と答えた児童数が全国平均58.6%に対し、抽出調査校では71.4%、演劇祭出演校では100%となっている。

○生活習慣や学習環境調査（生徒質問紙調査）の結果（公立：中学校3年生）



特別活動の時間等を活用し、校内の子どもたちが演劇に取り組み、演劇祭に出演している学校において、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた生徒数が全国平均45.8%に対して抽出調査校全体では62.5%、演劇祭出演校では83.3%となっている。

また「国語の授業で意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」と答えた生徒数が全国平均42.3%に対し、抽出調査校では87.5%、演劇祭出演校では100%となっている。

「すべては子ども達のために」

【教育委員会では】

- 1 未来を担う子どもたちが自ら学び、自ら考える力を育成します。
- 2 学力の確実な定着を図り、生きる力を育成します。
- 3 様々な体験や経験、スポーツ等を通じて社会性を身につけ、人格形成に努めます。

今後とも、教育環境の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となった、学習・生活習慣づくりを推進します。

【学校では】

- 1 定期的に授業を公開し、成果や課題について常に検証に努める教育活動（実践検証的な研修教育）を推進します。
- 2 児童生徒が発表する場面を積極的に取り入れ、自ら学ぶ意欲を育てます。
- 3 児童生徒の学習活動だけではなく、これまでと同様に、様々な体験学習やスポーツ等を通じて社会性を身に付けた人格の形成を目指します。
- 4 家庭学習の定着化に向け、宿題の出し方の工夫等を図ります。

【家庭では】

- 1 「早寝・早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん」運動を習慣化しましょう。
- 2 読書に親しむ環境づくりのために、「NOテレビ、NOゲーム、NOインターネット」の日を設けましょう。
- 3 毎日、目標を立てて計画的に家庭学習（予習・復習など）に取り組みましょう。
- 4 「ほめて、伸ばす」家庭教育に取り組みましょう。

【地域では】

- 1 他人を思いやる豊かな心や社会のルールを守る環境づくりを進めましょう。
- 2 地域の子ども達を守り育てる環境づくりを進めましょう。
- 3 「学校の応援団」として、学校支援ボランティアへの登録と支援をお願いします。

教育行政・学校・家庭・地域社会が連携し、確かな学力の向上に努めます。